

令和6年度花巻市学力向上アクションプラン

令和6年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

児童生徒の学力保障は学校の責務、取組の中核は日々の授業

花巻市の児童生徒が主体的・対話的で深い学びができるように、学校、教職員は個別最適な学びと協働的な学びを位置付けた授業改善に取り組むようお願いします。

【社会に開かれた教育課程 ⇔ 各学校におけるカリキュラム・マネジメント】

心理的安全性の高い環境

学校生活の大部分を占める授業が要

節度ある家庭生活でリフレッシュ

学級・学年経営の充実

学習者主体の授業改善

家庭学習の抜本的改善

開かれた学校、学級、授業
カリキュラム・マネジメント
学校内外の環境の把握

主体的・対話的で深い学びの
視点からの学習過程の改善
主体的に学習に取り組む態度の育成

学びに立ち向かう力
人間性の涵養

学びを人生や社会に生かす資質の向上

土台は生徒指導

本丸は授業改善

仕上げは自主学習

問題が発生した場合
心配が確認されたなら
組織的に素早い手だて

校内改善が難しい場合
保護者、地域、行政
の支援

知識・技能の習得
各種調査の分析による
学習過程の質的改善

思考力・判断力・表現力の育成
質の高い理解を図る
学習過程の質的改善

知識・技能の定着
学校教育活動と家庭
学習のリンク

粘り強さ・自らの学習の調整
家庭学習の仕方の確立
保護者・地域との連携

学力向上策

チェックポイント

- 学校経営に際しては、学年学級運営や授業の状態を踏まえ、学級担任等、個々の教員が担う役割が機能するように工夫していますか
- 問題が発生した場合は、学級で考えたり話し合ったりするなど、子どもの主体的改善に取り組んでいますか
- 学級で解決できない場合は、担当者の追加、組み替えなど、全校体制で組織的な改善に取り組んでいますか
- 学校で改善が難しい場合は、保護者、地域、行政の支援を活用して全力で改善に取り組んでいますか

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質的改善に全職員で組織的に取り組んでいますか
- 各種調査を分析して、知識・技能の習得を図る授業の質的改善に取り組んでいますか
- 質の高い理解を図る手立てを工夫して、思考力、表現力、判断力を育成する授業の質的改善に取り組んでいますか
- 小中の連続的な学びを意識し、主体的に学習に取り組む態度を育成する手立てを講じていますか

- 生徒指導、学習指導、進路指導に際しては、学びを人生や社会に生かそうとする学びに立ち向かう力を持たせるように取り組んでいますか
- 学校教育活動と家庭学習をリンクして、知識・技能の定着を図る手立てに取り組んでいますか
- 家庭などと連携して、学習の進め方を試行錯誤するなど学習を調整したり、力を入れる教科を考えるなど粘り強く取り組む手立てを講じていますか
- 算数・数学、外国語活動・英語などの課題教科を克服するための具体的な取組をしていますか

行政支援

- 生徒指導、不応児童生徒等の安定に向けた支援
- 学力向上担当児童生徒対象講話（中1 悉皆）等
- 諸調査の学年別、教科別の経年変化等の情報提供

- 授業中学サポーター・ICT支援員配置、ALT派遣等
- 指導主事等授業力向上研修、学力向上担当教員対象講義演習等
- 諸調査の教科調査、設問別データ等の情報提供

- 「家庭教育スタンダード」「数学・英語Gアップシート」提供
- 学力向上担当保護者（就学前後保護者重視）等対象講演等
- 諸調査の児童生徒質問紙調査等の情報提供

—学力向上担当の講話・講演・講義等の重点—

- <児童対象講話等> 家庭生活の過ごし方、授業の受け方（生活学習習慣の形成） → 心理的安全性の高い学級・学習環境
- <生徒対象講話等> 数学・英語の自主学習（自主的自律的生活学習習慣の形成） → 数学・英語Gアップシートの有効活用
- <保護者対象講演> 非認知スキルを育む子育て・家庭教育（非認知能力の育成） → 就学前後のお子様の保護者対象を重視
- <教職員対象講義> ゴールから組み立て意欲を引き出す授業（授業改善の推進） → 課題意識をもつ教員の個別研修を重視

—その他の支援—

小学校漢検・中学校英検助成、コミュニティ・スクール連動
タブレットPC・ロイロノート・学習支援ソフト・ラインズ
eライブラリ等

「令和6年度花巻市学力向上アクションプラン」の指標項目

令和6年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

※ 「<成果指標2>花巻市学力向上策の要点」に係る令和6年度目標値設定資料（平成30年度策定、令和元年度部分改定）です。令和元年度から3年度までの3力年で、岩手県実績値の最高値を花巻市令和4年度以降の目標値に設定しています。ただし、岩手県令和5年度実績値が花巻市令和5年度目標値を上回った場合、花巻市令和6年度目標値は岩手県令和5年度実績値に更新しています。【単位%】

学力向上策	指標項目（県学調 児童生徒質問紙 肯定回答）	学年	対象	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	学年	対象	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	備考
学級・経年の学実	1 学校に行くのは楽しいと思いませんか	小5	市県	90 88	83 85	87 87	88 87	81 85	84 85	87	中2	市県	88 88	86 86	87 86	81 84	85 85	84 86	86	
	2 自分にはよいところがあると思いませんか	小5	市県	78 78	69 76	73 74	76 73	68 73	71 72	78	中2	市県	71 74	70 71	72 72	71 71	74 72	76 76	71	花巻市3期計画指標
	15 先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いませんか	小5	市県	78 80	75 79	78 80	80 80	80 81	81 81	81	中2	市県	82 82	79 82	83 83	80 82	83 84	86 86	更新 86	
	19 R1～R4学級は、お互いに助け合ったりお互いのよさを認め合ったりできている学級だと思いますか R5～新規授業や学級活動の話し合いで、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いませんか	小5	市県		77 83	82 86	89 89	83 87	新規 73 73	新規 73	中2	市県		85 84	88 87	86 88	89 88	新規 73 76	新規 76	R5質問紙項目内容変更 R4以前データ比較不能
	22 R1～学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題の答えなどについて、間違っても認めあえる雰囲気がありますか	小5	市県		81 83	84 86	87 86	84 85	86 85	86	中2	市県		86 86	88 88	87 88	88 88	88 88	88	
学習者の授業改善	26 R1～授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いませんか	小5	市県		82 83	81 82	82 82	84 82	81 80	83	中2	市県		84 87	86 87	83 85	86 87	85 86	87	
	20 R1～授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いませんか	小5	市県		79 82	80 82	86 83	84 82	76 78	83	中2	市県		73 78	84 83	83 82	82 82	80 80	83	R5小5課題
	21 R1～授業中の振り返る活動で、その時間の学習内容で何が大切だったか分かったと感じていますか	小5	市県		90 91	90 90	92 90	88 88	84 87	91	中2	市県		83 86	87 88	88 88	87 87	86 86	88	R5小5課題
	23 R1～先生は、あなたが授業やテストでわからなかったところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください	小5	市県		86 91	91 92	93 93	92 92	90 90	93	中2	市県		84 86	91 90	88 91	91 91	89 90	91	
家庭学習の抜本的改善	7 学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間、勉強しますか（小5・6年→1時間以上、中→2時間以上、勉強している）	小5	市県	74 71	71 69	73 73	76 69	69 67	57 63	73	中2	市県	20 22	18 21	20 25	16 20	19 20	17 18	25	R5小5課題 全国学調中3は35%以上
	8 家で、自分で計画を立てて勉強していますか	小5	市県	67 66	67 68	70 70	72 69	69 69	63 66	70	中2	市県	45 47	49 51	52 54	53 52	52 50	50 50	54	R5小5課題
	9 R1～学校の宿題などに加え、弱点を克服する学習に取り組んだり、発展的な問題に取り組んだりしていますか	小5	市県		61 65	61 67	68 67	64 68	64 65	68	中2	市県		51 53	58 59	57 58	61 60	59 58	60	

※ R1小5とR4中2、R2小5とR5中2、R3小5とR6中2はそれぞれ同一集団

印は、経年、県、目標との比較で特に大きな課題です。他に、「今回の国語の最後の問題は、解答を文章で書く問題でした。その問題について、どのように解答しましたか」「今回の算数・数学の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか」に対し、「解答しようと努力した」の割合が小5、中2ともに県を大きく下回り課題です。

令和5年度 国語の調査問題への取組	小学校5年生		中学校2年生	
	花巻市	岩手県	花巻市	岩手県
解答しようと努力した	76.0	83.0	64.0	70.0
途中であきらめた	16.0	12.0	19.0	15.0
全く解答しなかった	8.0	5.0	16.0	14.0

令和5年度 算数・数学の調査問題への取組	小学校5年生		中学校2年生	
	花巻市	岩手県	花巻市	岩手県
解答しようと努力した	68.0	74.0	42.0	50.0
途中であきらめた	28.0	24.0	47.0	40.0
全く解答しなかった	4.0	2.0	11.0	10.0

令和6年度全国学調・県学調の予測値と期待値(目標値)の算定

令和6年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

I 平均正答率を1年間の学力向上の取組の目標に設定するときの問題点とその解決の手立て

平均正答率を目標にして1年間の取組の効果を検証しようとする、過去の学級・教科指導環境や集団の潜在能力の差などによって平均正答率が左右され、1年間の取組の効果が捉えにくくなります。また、学力調査は相対評価のNRTや絶対評価のCRTなど標準化作業を経た「標準学力検査」と全国学調、県学調、市販テスト、教師自作テストなどの標準化作業を経ない「非標準学力検査」に大別され、前者が得点率を用いて年度をまたぐ評価を可能にするのに対して、後者は調査問題の難易度が異なるために平均正答率の比較が意味をなさないこともあります。さらに、中学校数学、英語などは全国レベルと県レベルの調査母体の格差が大きく、全国学調と県学調など異なる調査間の比較を難しくすることもあります。つまり、**平均正答率を目標に1年間の取組の効果を検証するためには、過去の学級・教科指導環境や集団の潜在能力、調査問題の難易度、調査母体の格差などを踏まえて評価する必要があります。**

そこで花巻市では、「平成31年度(令和元年度)花巻市学力向上アクションプラン」から児童生徒の意識調査結果を指標に掲げて1年間の取組の効果を検証することにしました。同時に、これまで積み上げてきた学力データと当該集団の直近の学力実績を基にして、**過去の学級・教科指導環境や集団の潜在能力、調査問題の難易度、調査母体の格差など平均正答率に及ぼす影響を可能な限り補正し、1年間の学校・教職員の取組や児童生徒の頑張りを評価する手立てを模索し、1年間の学校・教職員の指導効果や児童生徒の成長を看取ることができるようにしました。**令和2年度はコロナ禍で全国学調と県学調が中止になり令和3年度全国学調の予測値を算定して期待値(目標値)を設定することができませんでしたが、令和4年度以降は部分的に令和2年度の全国学調と県学調の中止の影響を受けつつも期待値(目標値)の設定が可能になっています。

II 令和6年度小4～前8義務教育段階のCRT・県学調・全国学調の花巻市と県・全国の平均正答率との差一覧【単位%】

R6年度学年	小3全国CRT	国語	算数	小4全国CRT	国語	算数	小5県学調	国語	社会	算数	理科	小6全国学調	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	新入生	国語	数学	中1全国CRT	国語	社会	数学	理科	英語	中2県学調	国語	社会	数学	理科	英語	中3全国学調	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	英語				
小3	R6			R7			R8					R9																															
小4	R5	0	+1	R6			R7					R8																															
小5	R4	-2	-2	R5	-2	-4	R6					R7																															
小6	R3	+1	+2	R4	+1	0	R5	-3	-	-3	-	R6																															
中1	R2	+4	+5	R3	+3	0	R4	-1	-	-2	-	R5	-1	-4	-							R6																					
中2	R1	+3	+3	R2	+4	+4	R3	0	-	+1	-	R4	0	-2	-2	R5	0	-1				R6																					
中3	H30	+5	+5	R1	+4	+5	R2	コロナ中止	-	コロナ中止	-	R3	-2	-4	-	R4	-3	-3				R5	-1	-3	-8	-6	-1																
高1	H29	+5	+5	H30	+2	+2	R1	-1	0	-1	0	R2	コロナ中止									R3	+1	-1	-3	+1	0																
高2	H28	-	-	H29	+3	+4	H30	0	+1	+1	0	R1	+4	0	-	R2	コロナ中止					R3	+2	0	-3	-2	-2																
高3	H27	-	-	H28	-	-	H29	-1	+1	+2	+1	H30	+3	+1	0	0	+1					R1	+2	+2	-2	-2	+2																
前1	H26	-	-	H27	-	-	H28	+1	0	0	+1	H29	+2	+1	+1	-1	-					H30	0	-2																			
前2	H25	-	-	H26	-	-	H27	+1	0	+2	+1	H28	0	+1	0	0	-					H29	0	+1																			
前3	H24	-	-	H25	-	-	H26	+3	+3	+4	+4	H27	+5	+5	+3	-1	+5					H28	+1	0																			
前4	H23	-	-	H24	-	-	H25	+3	-	+6	+4	H26	+3	+4	+2	+4	-					H27	+1	0																			
前5	H22	-	-	H23	-	-	H24	+1	-	+4	+3	H25	+2	+3	+1	+1	-					H26	-	-																			
前6	H21	-	-	H22	-	-	H23	+1	-	+1		H24	抽	出	校	集	計					H25	-	-																			
前7	H20	-	-	H21	-	-	H22	0	-	+3	-	H23	震	災	未	実	施					H24	-	-																			
前8	H19	-	-	H20	-	-	H21	+1	-	+2	-	H22	抽	出	校	集	計					H23	-	-																			

【本資料のねらい】
 ここ数年、全国・県の学力に比べて、花巻市は下がり続けています。教職員や児童生徒が1年間頑張っても、花巻市の正答率が下がり続ける流れの中、教職員や児童生徒は成果を実感できずモチベーションが低下しているかもしれません。そこで、本資料を活用して1年間の成長の度合いを目標にして評価するシステムを作ることで、教職員や児童生徒のやりがいや意欲を前向きにする取組をしてみたいはいかがでしょうか。

Ⅲ 令和6年度全国学調の予測値と期待値（目標値）の算定

1 6年度小6全国学調

	国語	社会	算数	理科
ア 前5～中1・9個学年の小5県学調県差の平均実績値	+0.7	+1.0	+1.9	+2.0
イ 前5～中1・9個学年の小6全国学調全国差の平均実績値	+1.1	-	+0.1	+1.3
ウ 全国学調と県学調の平均実績値の差（補正值） イーア	+0.4	-	-1.8	-0.7
エ 小6の小5県学調県差の実績値	-3.0	-	-3.0	-
オ 小6全国学調全国差の予測値 エ+ウ	-2.6	-	-4.8	-
カ 学力向上取組による加算	+1.0	-	+1.0	-
キ 小6全国学調全国差の期待値（目標値） オ+カ	+1.6	-	-3.8	-

2 6年度中3全国学調

	国語	社会	数学	理科	英語
ア 前8～高1・9個学年の中2県学調県差の平均実績値（英語混）	+0.7	0	-0.7	-0.6	-1.4
イ 前8～高1・9個学年の中3全国学調全国差の平均実績値	+0.6	-	-4.1	-2.0	-8.5
ウ 全国学調と県学調の平均実績値の差（補正值） イーア	-0.1	-	-3.4	-2.6	-7.1
エ 中3の中2県学調県差の実績値（英語 IBA）	-1.0	-	-5.0	-	-1.0
オ 中3全国学調全国差の予測値 エ+ウ	-1.1	-	-8.4	-	-8.1
カ 学力向上取組による加算	+1.0	-	+1.5	-	+1.5
キ 中3全国学調全国差の期待値（目標値） オ+カ	-0.1	-	-6.9	-	-6.6

3 全国学調の予測値と実績値から算定した小6・中3段階の1年間の成長

※ 予測値と実績値の差を1年間の成長とみなします。

令和 6年度 の学年	小学校6年						令和 6年度 の学年	中学校3年								
	国語			算数				国語			数学			英語		
	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長		予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長
小6	-2.6			-4.8			中3	-1.1			-8.4			-8.1		
中1	+0.4	-1.2	-1.6	-4.1	-3.5	+0.6	高1	-1.2	-0.8	+0.4	-5.3	-7.0	-1.7	-4.4	-10.6	-6.6
中2	+1.2	+0.4	-0.8	-1.4	-2.2	-0.8	高2	+2.9	+2.0	-0.9	-5.5	-3.4	+2.1	-4.5	未実施	-
中3	算定不能	-1.7	-	算定不能	-4.2	-	高3	算定不能	+1.4	-	算定不能	-4.2	-	-5.5	未実施	-
高1	+0.5	データ無	-	-2.9	データ無	-	前1	+0.1	データ無	-	-3.7	データ無	-	-5.4	未実施	-
高2	+1.6	+4.2	+2.6	-1.5	+0.4	+1.9	前2	-0.6	+1.2	+1.8	-6.3	-5.6	+0.7	-6.3	-6.0	+0.3
高3	+1.4	+2.3	+0.9	+2.8	+0.5	-2.3	前3	+0.6	+1.9	+1.3	-5.3	-2.5	+2.8	-	未実施	-
前1	+2.1	+1.9	-0.2	-2.7	+0.3	+3.0	前4	+1.4	+1.7	+0.3	-2.0	-1.9	+0.1	-	未実施	-
前2	+0.9	+0.8	-0.1	-0.8	+0.1	+0.9	前5	-0.2	+0.6	+0.8	-3.9	-3.0	+0.9	-	未実施	-
前3	+4.3	+5.1	+0.8	+1.4	+0.9	-0.5	前6	-0.5	-2.9	-2.4	-5.0	-6.0	-1.0	-	未実施	-
前4	+4.3	+3.1	-1.2	+3.0	+2.9	-0.1	前7	+0.1	+0.1	0	-3.5	-3.9	-0.4	-	未実施	-
前5	+2.6	+2.5	-0.1	+1.5	+0.7	-0.8	前8	+1.3	+1.7	+0.4	-1.1	-3.7	-2.6	-	未実施	-

「Ⅲ 2 エ」の**囲み数字**は花巻市の実績値ですが、ここに各学校の実績値を入れ替え算定いただければ、各学校の予測値、期待値（目標値）を求めることができます。

Ⅳ 令和6年度県学調の予測値と期待値（目標値）の算定

※ 小4、中1のCRT実施は4年間分とデータが少なく、「予測値」と「実績値」の誤差は大きくなることが予測されます。

1 6年度小5県学調

	国語	社会	算数	理科
ア 高2～小6・5個学年の小4 CRT 全国差の平均実績値	+2.6	-	+2.0	-
イ 高2～小6・5個学年の小5県学調県差の平均実績値	-1.0	+0.5	-0.8	0
ウ 県学調とCRTの平均実績値の差（補正值） イーア	-3.6	-	-2.8	-
エ 小5の小4 CRT 全国差の実績値	-1.9	-	-4.4	-
オ 小5県学調県差の予測値 エ+ウ	-5.5	-	-7.2	-
カ 学力向上取組による加算（低過ぎ？高過ぎ？）	+1.0	-	+1.0	-
キ 小5県学調県差の期待値 オ+カ	-4.5	-	-6.2	-

2 6年度中2県学調

	国語	社会	数学	理科	英語
ア 前2～中3・5個学年の中1 CRT 全国差の平均実績値（英語 CanDo）	+0.8	-1.0	-4.4	+0.7	-1.6
イ 前2～中3・5個学年の中2県学調県差の実績値（英語 IBA）	+0.2	-1.5	-2.6	-0.5	-1.2
ウ 県学調とCRTの平均実績値の差（補正值） イーア	-0.6	-0.5	+1.8	-1.2	+0.2
エ 中2の中1 CRT 全国差の実績値（英語 CanDo）	-0.6	-4.7	-5.2	-5.0	-1.1
オ 中2県学調県差の予測値（英語 IBA） エ+ウ	-1.2	-5.2	-3.4	-6.2	-0.9
カ 学力向上取組による加算（低過ぎ？高過ぎ？）	+1.0	+1.0	+1.5	+1.0	+1.5
キ 中2県学調県差の期待値（英語 IBA） オ+カ	-0.2	-4.2	-1.9	-5.2	+0.6

3 県学調の予測値と実績値から算定した小5・中2段階の1年間の成長

※ 予測値と実績値の差を1年間の成長とみなします。

令和 6年度 の学年	小学校5年					
	国語			算数		
	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長
小5	-5.5			-7.2		
小6	-3.2	-3.4	-0.2	-3.5	-2.8	+0.7
中1	+0.3	-0.8	-1.1	-3.0	-1.8	+1.2
中2	+1.0	-0.5	-2.5	+1.5	+0.5	-1.0
中3	+1.1	データ無	-	+2.3	データ無	-
高1	-1.1	+1.1	+2.2	-0.9	-0.9	0
高2	-0.2	-0.2	0	+1.0	+1.0	0

令和 6年度 の学年	中学校2年														
	国語			社会			数学			理科			英語 IBA		
	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長	予測値	実績値	成長
中2	-1.2			-5.2			-3.4			-6.2			-0.9		
中3	-1.3	-1.0	+0.3	-3.6	-	-	-6.2	-4.3	+1.9	-6.8	-	-	-1.1	-0.4	+0.7
高1	+1.0	-0.6	-1.6	-1.7	-	-	-1.0	-2.1	-1.1	-0.1	-	-	+1.1	-0.7	-1.8
高2	+1.4	+3.0	+1.6	-0.6	未実施	-	-1.6	-2.0	-0.4	-4.4	未実施	-	-1.0	-1.1	-0.1
高3	+2.0	データ無	-	+1.5	データ無	-	-0.6	データ無	-	-4.4	データ無	-	+2.8	-1.0	-3.8
前1	+0.5	+0.4	-0.1	+0.4	-1.0	-1.4	-2.4	-1.2	+1.2	-2.5	+0.5	+3.0	-2.6	-1.0	+1.6
前2	+0.2	+0.2	0	-1.4	-1.4	0	-2.8	-2.8	0	-0.9	-0.9	0	-1.7	-1.7	0

注 英語に係る補足説明
英語の中1 CRT は Can Do（県比）、中2 県学調は英検 IBA（県比）を使って実施。英検 IBA は「書くこと」等がないので、Can Do の出題領域とは異なる。

令和5年度までの花巻市児童生徒の学力・意識の課題と令和6年度花巻市学力向上アクションプランを踏まえた学校取組事例

1 令和6年度の方針

学年を単位に前年度の課題を焦点化した後、生活アンケートや児童生徒質問紙調査の調査項目、各種学力調査の教科正答率や設問別正答率等を活用して、最優先で取り組むべき課題に係る数値化目標を設定します。課題解決に向けて年間を見通して段階的に取り組むべき具体的方策を共有して、年度末には最優先で取り組んだ課題に係る数値化目標の達成状況を取りまとめて総合評価します。

他に、全校で教科を単位に前年度の課題を焦点化する方法、校務分掌を単位に前年度の課題を焦点化する方法等も考えられます。大切にしたいことは、学校経営・運営が学年・教科・分掌主任の業務に直結するシステムを構築し、ひいては学校経営・運営が学級担任・教科担当・各分掌係等全職員の業務につながっている仕組みを作ることです。こうすれば、全職員が学校経営・運営への参画意識と自己有用感を高め、結果として学校としての教育効果につながります。各学校の学力向上アクションプランは、各学校の学力・意識調査の分析、児童生徒の実態、組織等の実情を踏まえて、きめ細かな手立てを講じることにより機能します。

2 令和6年度を取組

「花巻市学力向上アクションプラン」の「学級・学年経営の充実」「学習者主体の授業改善」「家庭学習の抜本的改善」3つの柱から学年単位に改善すべき課題を設定して具体的な改善の取組を行います。

項目・学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
選択項目	略	「学級・学年経営の充実」	略	「学習者主体の授業改善」	略	「家庭学習の抜本的改善」	略
R5 課題		R5小1「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答 75%		R5小3 算数 CRT 平均正答率の全国比 85		R5小5「平日1時間以上の家庭学習」55%	
R6 目標		R6小2「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答 85%		R6小4 算数 CRT 平均正答率の全国比 100		R6小6「平日1時間以上の家庭学習」が80%	
目標達成のためのR6具体的な取組		<ul style="list-style-type: none"> ① 子ども一人一人が自己肯定感を持ち、節度・規律ある生活と他者を考えた言動ができる集団づくりを意識 ② 学級担任として、児童の言動が建設的になるように関わったり、児童の人間関係の溝を埋めたりする取組を実践 ③ 個のよさや集団の成長を当たり前と思わず、個や集団の変化や努力を日常的に積極的に細やかに評価し、個や家庭に発信 		<ul style="list-style-type: none"> ① 1年間のゴールとして、児童が学ぼうとする力、学ぶ力、学んだ力を身に付けられるように授業改善 ② 教師主導の場と時間を精選し、学習の主体が児童にある場と時間を生み出し、個人差を埋め個を伸ばさせる取組を実践 ③ 基礎基本の評価問題を1単位時間の授業のまとめに必ず位置付け、児童が毎時間自己の学習成果を実感する授業を継続 		<ul style="list-style-type: none"> ① 児童一人一人がそれぞれに宿題の有無にかかわらず、授業で学んだことを土台に自律的、自主的、建設的に学びに向かっている状況に到達する手立てを意識 ② 児童を活かす授業の指導技術を磨くことと同等に、他者を元気にする、子どもや親の気持ちを押し測り前向きにする関わり方を実践 ③ 機会をとらえて本人や保護者に個々の児童のよさや頑張っていることを具体的に知らせ、認め、励まして親子の気持ちを前向きにする関わり方を継続 	
R6 目標達成状況		R6小2「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答 95%		R6小4 算数 CRT 平均正答率の全国比 110		R6小6「平日1時間以上の家庭学習」が100%	
R6 総合評価		市平均を10ポイント上回り目標達成。児童個々の成長を保護者に積極的に発信したことにより、保護者との信頼感が深まり、児童の前向きな姿勢が大きく成長		全国比で10ポイント上回り目標達成。授業の後半に個別最適な学びを位置付けて個別指導を行ったこと、毎時間の授業終末に1問テストを実施して定着を見取る手立てが奏功		国語と算数は必ず復習する児童が100%、算数は必ず予習する児童も80%と大幅に増加し、保護者の学校教育に対する満足度が飛躍的に向上	

3 令和6年度の総括

学年を単位にすべての学年でスモールステップの具体的な取組を継続した結果、いずれの学年においても「目標達成することができた」「目標達成には至らなかったが、前年度に比べて目標に近づくことができた」等、学校全体として成果を確認できました。……

ゴールから組み立て基礎基本を定着し学習意欲を高める授業改善

学力向上担当

「基礎基本を定着する授業」「多様な考えを育む授業」「主体的に学ぶ授業」等、先生方はいろいろ工夫して日常の授業実践をしていることと思います。しかし近年、花巻の子どもの学力は大きく低下し続けており、変容する子どもの実情に応じた授業の進め方に課題意識を持つ教員も多く見受けられます。そこで今回は、花巻の子どもの深刻な学力低下に歯止めをかけることを目的に、実践が浅く多忙な日常でも取り組みそうな「基礎基本を定着する授業」の進め方をできるだけ単純化して考えることにしました。ここで取り上げる学習指導過程を唯一無二と考え強制するものではありませんが、「基礎基本を定着する授業」に課題を感じている先生方には是非参考にしてほしいと思います。

1 「指導と評価を一体化」して「基礎基本を定着する授業」に改善

初めに、ゴール（単元テスト等の評価）から授業（学習活動の指導）をシンプルに考えてみましょう。

子どもはテストの結果が良いと満足し、先生の評価で次はもっと頑張ろうと思います。親も喜び、先生に感謝します。児童生徒、保護者、教師に信頼関係が生まれる良いサイクルです。そこで、教師は児童生徒がテストで良い結果を出せる授業にすることが大切になります。

子どもは一度の学びで分かる、できるようになることは稀で、大方は同じことや似たようなことを何度も繰り返すうちに分かる、できるようになるものです。授業、家庭学習、単元テストの問題や似たような問題を幾度も解くうちに理解が深まり、やがて基礎基本として定着します。

これらのことから、

- ① 全ての児童生徒が単元テスト等に出題されている問題や類似問題を解けるようになり、分かった、できたことを確認して終わる授業展開をして、
- ② 授業で習った問題を自力で解けるようになったことを自分で確かめる家庭学習につなげ、
- ③ 時間を置いてこれらが総合的に出題されている単元テストで良い結果を得る体験を積ませる。
- ④ ①～③がスパイラルに連動する指導計画を作成して実践を継続すると、
- ⑤ やがて児童生徒は学習成果を実感できるようになり、前向きに意欲的に学習に取り組むようになります。

「指導と評価を一体化」して「基礎基本を定着する授業」に改善するためには、具体的にはこのような取組が効果的なのではないでしょうか。

2 「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の具現化

次に、日常の授業でよく見られる課題について、近年の動向を踏まえつつ改善策を考えてみましょう。

「子どもの学力差が大きく、どのように授業を進めればよいのか悩んでいる」と先生方からよく伺います。また、授業参観させていただくと、最終的にすべての児童生徒が分かったのか、できたのか見取ることができない授業にも出くわします。さらに、教師が一方向的に話し続けている授業も少なからず見かけます。

初めから終わりまで教師が主導権を握る授業ばかりしては、個人差に応じた指導ができる時間は生み出せません。また、授業の中に子どもが自力でじっくり問題を解く場面を作らない限り、授業者も参観者も個々の子どもが分かったのか、できるようになったのか看取ることはできません。さらに、教師が一方向的に話す話し続ける授業に児童生徒の主体的な学びは期待できませんし、主体的な学

びが学習成果に直結するというデータにそぐわない指導法です。

これらのことから、

- ① 教師は児童生徒の考えや発言を取り上げ生かして授業を組み立てる指導技術を磨き、
- ② 児童生徒を手放しても児童生徒個々に若しくはグループ毎に学びが続く仕組みをつくり、
- ③ その時間を使って、教師（T2がいる場合はさらに効果的）は個人差に対処したり、理解に至っている児童生徒はさらに難しい問題にチャレンジしながら一人学びや学び合いを続けたりし、
- ④ 授業終盤では、すべての児童生徒が分かった、できたに辿り着いたことを確実に看取って、
- ⑤ 児童生徒が家庭で行う自主的自立的学習につなげます。

近年強調される「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の具現化は、このようにして行うのではないのでしょうか。

3 「学習意欲」と「居心地の良い人的環境」「分かった、できたで終わる授業」

さらに、子どもの学習意欲を持続する手立てについても考えてみましょう。

教師は児童生徒、保護者、同僚や上司との関係が良いと心が軽くなるように、子どもも親、先生、友人や先輩との関係が良いと気持ちが安定してやるべきことに集中できます。学級、学年、学校経営においては、日頃から子ども一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、子ども一人ひとりが居心地の良い人的環境を整える生徒指導が基盤と心得なければなりません。

生活科に代表される経験単元に対し、大部分の教科の教材単元は内容ありきで進行します。教師主導に陥りやすく子どもの学習意欲を削いでしまう危険に留意しなければなりません。児童生徒の学習意欲は自らの力で分かった、できたときに最高潮に達すると考えられることから、我々が大切にしなければならぬことは、繰り返しになりますが、すべての子どもに分かった、できたを実感させる授業を提供することです。

これらのことから、1時間1時間の授業では、次のことを確認してほしいと思います。

- | | | |
|-------|-------------------------------------|--------------------------|
| 【はじめ】 | ・授業では分からない、できない児童生徒を主役に位置付けているか | <input type="checkbox"/> |
| | ・児童生徒は何が分かり、できるようになればよいのかつかめているか | <input type="checkbox"/> |
| | ・一斉指導、学び合いの場が、理解力に劣る子を巻き込んで展開されているか | <input type="checkbox"/> |
| 【なか】 | ・一人学びの場が確保され、一人学びの時間は十分にとられているか | <input type="checkbox"/> |
| | ・そこでつまずいている子への支援は、偏りなく行き届いているか | <input type="checkbox"/> |
| | ・分かった、できた子は次の問題にチャレンジし、互いに高め合っているか | <input type="checkbox"/> |
| 【おわり】 | ・確かめ問題が適切に設定され、確かめの時間が十分に確保されているか | <input type="checkbox"/> |
| | ・それを使ってすべての児童生徒の分かった、できたを確認しているか | <input type="checkbox"/> |
| | ・児童生徒の家庭学習をつくり、学習習慣を育む手立てはとられているか | <input type="checkbox"/> |

児童生徒の「学習意欲」は、「居心地の良い人的環境」を基盤とする「分かった、できたで終わる授業」から生まれると考えられます。

皆さんは日頃同僚や上司に大切にされていると感じていますか。機嫌が良い人とそうでない人とどちらの人が好きですか。学校が楽しいと思いついて過ごしていますか。これらの感じ方はきっと子どもも同じです。教師が行きたい学校は、児童生徒も行きたい学校に違いありません。そしてその土台は、誰もが人目を気にせず生活できる生徒指導が安定した環境で、分かった、できた経験が乏しい子どもが分かった、できたと笑顔になり、分かった、できた経験が豊富な子どもは仲間と高め合いながら難しいことにチャレンジして輝く、そんな授業が日常的に行われている学校のように思います。

学習指導略案（例） 授業者（ ）
 学年（ ） 教科（ ） 内容（ ） 時限（ / ）

段階	児童生徒の学習活動	教師の指導・支援・評価	時間
はじめ	問題提示・課題設定	発達段階に合う表現	5
なか	<p>問題や課題の解決に向けた主体的な学び →個々のモヤモヤを解消する対話的な学び →対話的な学びを活かした主体的な学び</p> <p>問題・課題の解決</p> <p>適用・一般化</p> <p>個別最適な学び→協働的な学び→深い学び</p>	<p>児童生徒の思考に沿いつつ、教えなければならないことはしっかりと指導</p> <p>場面、状況、数値を代えて適用・一般化</p>	15
か	<p>問題等演習</p> <p>自己選択・個別指導・個別学習</p> <p>基礎基本でつまずいている子への支援・指導 基礎基本をクリアしている子は応用・発展学習 さらに問題作りにも挑戦</p>	<p>基礎→発展の複数の問題等を用意</p> <p>主体的対話的で深い学び個別最適な学び 協働的な学び</p>	15
おわり	<p>基礎基本定着確認テスト</p> <p>個々に自力解決の力が身に付いたか確認 振り返りで次への意欲 必要に応じて学び直し</p>	<p>指導と評価の一体化 単元テスト等の問題活用 児童生徒個々に基礎基本の定着状況を把握</p>	5
おわり	自力解決・チャレンジ問題への意欲	宿題・自主学習・次時の課題提示	5

【授業終了後の成果・課題、次時の手立て】

単元評価案（例） 授業者（ ）
 学年（ ） 教科（ ） 単元（ ） 正答率（ ）

大問	小問	問題概要	児童																児童数	正答数	正答率	要復讐							
			①	②	③																								
1	(1)	整数の加法	○	○	○																	20	20	100					
	(2)	小数の加法	×	○	○																		20	10	50	○			
	(3)	分数の加法	×	×	×																		20	5	20	○			

【単元終了後の成果・課題、今後の手立て】

【補足①】 先生方が学習指導要領の本質を理解して授業改善の手立てに具現化するこ

とにより、児童生徒は基礎・基本を定着して学習への意欲を高めるようになります。

学力向上担当

1 「主体的な学び」で「深い学び」へ

学習指導要領に示される「主体的な学び」とは、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び」です。子どもに「主体的に取り組みなさい」と言ってそうなのであれば事は簡単ですが、そうならないから先生の手立て「個別最適な学び」「協働的な学び」を機能させることが重要です。

具体的にどうすれば子どもは主体的に学ぶようになるのでしょうか。「主体的な学び」は「自己の学習の振り返り」が起点です。子どもは「振り返り」の意義を理解しているのでしょうか。学習したことは「スッキリ」「スッキリとモヤモヤ混じり」「モヤモヤ」3つのどれか自己評価できているのでしょうか。学習内容の理解状況と関連付けて自分の心の内を素直に表現できることは自分にとってよいこと（個別最適な学び）、学級の仲間が「スッキリ」できるように自分の力を生かすことは人として立派なこと（協働的な学び）を子どもたちが実感すると、「主体的な学び」に向かって動き始めます。

この動きを作るためには、「モヤモヤ」を皆に話せる心理的安全性の高い教室の雰囲気を作ること（学級経営や生徒指導の充実）、学習したことの肝を確実に見取る手立てを授業に組み込むこと（授業改善の視点）、これら2つが教師の役割として大切です。教師が児童生徒個々の「モヤモヤ」を大切に学習したことの肝を確実に見取る手立てに「自己選択」の要素を盛り込むことも効果的です。複数ある問題の中からどの問題で確かめ学習をするか自己決定することは「振り返り」➡「主体的な学び」へ直結します。

2 「対話的な学び」で「深い学び」へ

学習指導要領に示される「対話的な学び」とは、「子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び」です。「対話的な学び」も「個別最適な学び」「協働的な学び」と関係します。「分かる、できる」「分かる、できると分からない、できない半々」「分からない、できない」の「自己の学習の振り返り」を起点に、誰かの「分からない、できない」を解決するために自分の「分かる、できる」を活かせるよう「協働的な学び」を仕組みます。「対話的な学び」「協働的な学び」で「他者の考えを手掛かり」にして再び「主体的な学び」「個別最適な学び」にサイクルすることが重要です。

学習指導要領に示される「深い学び」とは、「各教科等で習得した概念や考え方を活用した『見方・考え方』を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう学び」です。各教科等の「見方・考え方」とは「社会につながる教科の内容」、つまり「人生に役立つ学習内容」と置き換えることができます。これが学習したことの肝であり、「深い学び」は「人生に役立つ学習内容」を中核に展開することが大切です。

グループ学習が単なるミニ発表会になっては「深い学び」に辿り着きません。「主体的な学び」「個別最適な学び」⇔「対話的な学び」「協働的な学び」で「インプット」「アウトプット」を往還することで「深い学び」が実現します。例えば、算数・数学の「見方・考え方」で、ある具体的な事例から「主体的な学び」「対話的な学び」を通して「比べるときは単位をそろえなければならない」という肝を見だし、この肝を別の具体的な事例に適用して成立することを確かめ、最終的には日常場面の具体的な事象に応用する力として働かせることができるようにしていくというイメージです。

【補足②】 児童生徒は教師が言う通りにやらなくても、教師がやる通りにはする。教

師が授業で使う言葉や表現が児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」に直結します。

学力向上担当

児童生徒は、教師の言う通りにはしないことは多々ありますが、教師がやる通りにはするようになっていくものです。「やってみせ 言って聞かせて させてみせ ほめてやらねば 人は動かじ」山本五十六氏が人を育てるトップのあるべき姿を表した名言です。教師は教室のリーダーであり、学級全体に大きな影響力をもちます。「言って聞かせて させ」ようとするリーダーはあまねくおりますが、「やってみせ」るリーダーは案外希少です。強調したいことは、「やってみせ」られる教師を目指してほしいということです。「言うは易く行うは難し」、実はリーダーへの信頼や敬意はここから生まれます。子どもは教師を見ていないようで意外に注意深く見えています。日常的によい模範に触れている子どもは、黙っていてもやがて同じようにやってみようようになります。

授業で児童生徒に向けて使っている言葉や表現を想起してほしいと思います。児童生徒に「主体的になりなさい」「対話的に進めなさい」「深い学びをきなさい」と檄を飛ばしたところで、そうなるはずはありません。児童生徒が学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、教室のリーダーである教師が普段の授業で「主体的・対話的で深い学び」に直結する言葉や表現を多用し、それが自然に児童生徒にも波及していくことが望ましい教育環境です。

具体的にお話しします。児童の「モヤモヤ」を「スッキリ」へ向かわせ、生徒の「分からない、できない」を「分かった、できた」へ誘う学習指導過程で、次のような言葉、表現を使っていますか。

(1) 相手の考えを受け止める言葉や表現の具体例

「なるほど！よく気付いたね」「その考え方はすごくいい」（承認、納得）
「そういう考え方もあるんだ」「その考え方の方がいいかもね」（補足、変化）
「やっぱりそうなんだ！」「そこが大事なんだ！」（確認、強調・協調）

(2) 相手に返して対話を活性化させる言葉や表現の具体例

「ちょっと待てよ!?!」「ここはどう考えればいい？」（疑問、転換）
「私はこう思うけど、あなたはどう思う?」「この違いをどう説明する?」（意見、質問）
「もうちょっと聞かせてほしい!?!」「そこもう少し詳しく知りたい!」（追求、深堀）

(3) 全体で考えを深め発展させる言葉や表現の具体例

「そういえばこういうことがあったけど?」「あなたの考えを聞きたい?」（想起、催促）
「あっ、分かった!」「あなたの考えはこういうことか!」（発見、確認）
「あなたの考えを生かすと!?!」「ここもう少し考えてみよう」（推論、発展）

あまり意識したことはないかもしれませんが、日常の授業で「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉や表現を何気なく使っている先生方もいらっしゃいます。私は授業研や個別研等でたくさんの授業を参観させていただいています。「主体的・対話的で深い学び」を実現している授業とそうではない授業を比較すると、先生の「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉や表現に大きな差があるように思います。とすれば、「主体的・対話的で深い学び」につながる言葉や表現を磨けば、誰もが「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善ができるはずですが、大切なことをもう一つ付け加えると、言葉、表現と同様に、明るくさわやか、前向きで元気、教育愛と行動力、教師の表情や姿勢も教室の空気を大きく左右します。子どもの前に立っている自らの姿を思い浮かべ意識してほしいと思います。よいリーダーに恵まれると組織が活性化して成果が上がるように、よい教師に恵まれると学級の児童生徒は能力を発揮してさらに力を付けていきます。